赤川水系河川整備学識者懇談会

山形県の流域治水の取組み状況について

令和５年12月12日（火）

山形県県土整備部河川課

流域治水の取組み状況について（1/2）

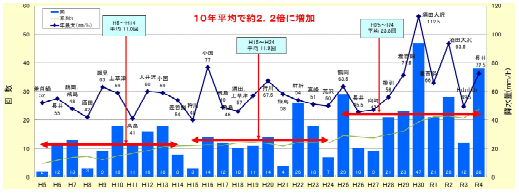
令和５年１２月１２日
山形県県土整備部河川課

1 取組みの柱

気候変動の影響による豪雨災害の激甚化・頻発化

県内においても毎年のように被害が発生

- 平成30年8月豪雨
- 令和元年東日本台風
- 令和2年7月豪雨
- 令和4年8月大雨



県内における1時間降雨量30mm以上の発生回数及び年間最大1時間降水量の推移（H5～R4）

- 国・県・市町村等で構成する「流域治水協議会」を設立し、水系毎に「流域治水プロジェクト」を策定
- 流域のあらゆる関係者が協働し、ハード・ソフト一体となって、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を計画的に推進

「流域治水」取組みの３つの柱

取組みの柱	（1）氾濫をできるだけ防ぐ・減らす（主にハード対策）	（2）被害対象を減少させる（主にソフト対策）	（3）被害の軽減、早期復旧・復興（主にソフト対策）
対策内容	・河川整備 ・流下能力向上・持続化対策　等 ・利水ダムにおける事前放流 ・森林整備・治山対策 ・水田貯留　等	・災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成および居住誘導 ・土地利用規制・誘導 ・家屋移転、かさ上げ補助制度創設 ・雪対策との連携（高床住宅）　等	・水害リスク情報空白域の解消 ・雨量・河川水位情報の発信 ・まるごとまちごとハザードマップ ・要配慮者利用施設の避難計画作成 ・マイ・タイムラインの普及促進　等

2 取組み状況

取組みの柱（1）「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす」（ハード対策）

① 県の河川整備

※ 詳しい河川整備状況については2枚目に記載しています

- 令和2年7月豪雨と同規模の洪水等に対し浸水被害の解消を図ることを目標として、「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策予算」等を活用し、概ね10年間（令和2年度～11年度）で35河川37か所、約500億円規模の河川整備を集中的に実施

令和5年度末までに8か所完了見込み

- 令和4年8月大雨により大規模な被害が生じた小白川・萩生川において「改良復旧」を実施

② 流下能力向上・持続化対策

平成24年度～

- 県では堆積土砂や支障木の計画的な撤去を実施し、近年の大雨でも氾濫を防ぐ効果を発揮



対策効果事例　前川（上山市北町）令和2年7月豪雨

令和4年度～

- 緊急浚渫推進事業債・緊急自然災害防止対策事業債を活用し、令和4年度から7年度までの4か年で集中的に対策

事業規模　：　延長約230km（R4～7）
事 業 費　：　R4:15億円　R5:12億円

- 下流部への土砂流出を抑制し、再堆積を防ぐ床止工の設置


床止工設置事例　吉野川（南陽市）

取組みの柱（2）「被害対象を減少させる」（ソフト対策）

○ 災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成および居住誘導（市町村）

- 立地適正化計画で定める誘導区域（居住・都市機能）について、災害リスクを考慮した区域の設定を行うことで、防災まちづくりを促進（県は技術的に支援）

取組みの柱（3）「被害の軽減、早期復旧・復興」（ソフト対策）

① 水害リスク情報空白域の解消（中小河川の洪水浸水想定区域の指定）

- 政府は令和3年に水防法を改正し、洪水浸水想定区域の指定対象を全ての一級・二級河川に拡大
- 県は、これまでに指定した河川（70河川）以外の484河川において、令和7年度までの指定完了を目指す

市町村のハザードマップへの反映

迅速・的確な避難

② 雨量・河川水位情報の発信

- 雨量情報（国観測を含む）　91箇所
- 県管理河川の水位情報　188箇所
- 県管理河川の画像情報　96箇所

「川の防災情報」でスマホでも閲覧可能



③ マイ・タイムラインの普及促進

- 住民一人ひとりが自ら取るべき防災行動を時系列で整理しておく「マイ・タイムライン」の作成を促進



3 今後重点的に進める取組み　特定都市河川制度の導入　石子沢川（中山町・山辺町）

- 石子沢川は流域の市街化が進展し、河道拡幅が困難



中山町あおば地区の開発




令和2年7月豪雨（中山町あおば地区）

令和3年度から国、県、町による勉強会を開催

特定都市河川指定を目指す

特定都市河川制度とは

制度的に担保
- 法的枠組み
- 予算制度
- 税　制

流域治水をより強力に推進
- ハード対策（河川改修等）
- ソフト対策（土地利用規制等）

（対策の事例）

【雨水貯留浸透施設整備】
町や民間が国の補助制度を活用し整備



【雨水浸透阻害行為】
1,000m²以上の開発には雨水の浸透・貯留対策を義務付け



流域における実効性のある治水対策

流域治水の取組み状況について（2/2）

令和５年１２月１２日
山形県県土整備部河川課

～ 県の河川整備状況 ～

宇津野沢川（庄内町）
- 平成16年など、度々浸水被害が発生
- 河道拡幅等により流下能力の向上を図る
- 現在、河道掘削、護岸工等を実施中



京田川（鶴岡市）
- 令和2年7月豪雨により浸水被害が発生
- 河道掘削及び築堤により流下能力の向上を図る
- 現在、護岸工を実施中
- 令和5年度完了予定



湯尻川（鶴岡市）
- 平成19年、25年など、度々浸水被害が発生
- 河道掘削等により流下能力の向上を図る
- 現在、上流部の県道橋架替工事を実施中



月布川（大江町貫見）
- 平成25年7月豪雨により、浸水被害が発生
- 河道掘削等により流下能力の向上を図った
- 令和4年度完成



小白川・萩生川（飯豊町）
- 令和4年8月大雨により、大規模な浸水被害が発生
- 再度災害を防止するため、流下断面の向上を図る「改良復旧」を実施
- 小白川は令和7年度、萩生川は令和6年度完了を目標
- 一部区間の工事発注済



令和5年度末までに完了見込み

角間沢川（戸沢村）
- 平成30年8月、2度の浸水被害が発生
- 国土交通省、戸沢村と連携し、輪中堤を整備
- 令和4年6月輪中堤完成



↑被災状況(H30.8月)



■出水期に向け合同巡視
- 国土交通省・県・村が角間沢川輪中堤で合同巡視を実施(R5.5.29)
- 地域を守る治水施設として、今後も国・県・村が連携しながら対応していくことを確認



指首野川（新庄市）
- 沿川に住宅地が多く、浸水被害の発生が想定される河川
- 河道拡幅により流下能力を向上
- JR橋及び市道橋架替工事等を実施中



最上小国川（最上町志茂）
- 平成30年に沿川の国道47号が冠水し通行止となるなど、浸水被害が発生
- 流下能力が不足している箇所の築堤等を実施中



大旦川（村山市）
- 平成9年、10年、14年、令和2年と度々浸水被害が発生
- 国土強靭化予算を活用し、調節池及び河川整備を加速化
- 令和5年6月22日に調節池を一部運用開始



■調節池の効果
- 令和2年7月豪雨と同規模の大雨に対し
  ① 家屋浸水被害を解消
  ② 東北中央自動車道村山ICのアクセス道への浸水を解消し、交通途絶を回避
- 最上川増水時に行われる「大旦川水門」の閉鎖回数が減少し、内水被害を軽減

白水川（東根市）
- 令和2年7月豪雨により最上川のバックウォーターで堤防決壊し、浸水被害が発生
- 令和4年度末に堤防復旧・嵩上げが完成



馬見ヶ崎川（山形市）
- 沿川に住宅地が多く、浸水被害の発生が想定される河川
- 河道掘削により流下能力を向上させるほか、河床低下防止対策(帯工)を実施中



吉野川（南陽市）
- 平成25年、26年、大規模な浸水被害が発生
- 河道掘削・築堤等により流下能力の向上を図る
- 橋梁架替え(5橋)完了
- 現在、大橋周辺の河道掘削、樋門工事等を実施中



羽黒川（米沢市）
- 平成元年、浸水被害が発生
- 河道拡幅、河道掘削、築堤等により流下能力の向上を図る
- 現在、河道掘削・低水護岸工、帯工を実施中



野呂川（山形市）
- 平成14年や令和2年など、豪雨の度に浸水被害が発生
- 河道拡幅により流下能力の向上を図っている
- 現在市道橋架替え等を実施中



